

## 応用科学技術大学における通訳授業の考察

王 珠恵

(台湾国立高雄第一科学技術大学 外国語学部応用日本語学科)

*I have been teaching interpretation (oral translation) at the National Kaohsiung First Technology University. The aim of my department is to train students in their second language expertise. Most of my students have been studying Japanese for 3 to 5 years since junior college. In Taiwan, the pedagogy of Japanese does not start until college or university, and students start with the basics. Consequently, it is difficult to teach interpreting skills in the junior and senior years. Nevertheless, I believe that interpreting skills can be used to enhance their ability in the acquisition of listening, speaking, reading, writing, and translating/interpreting skills. On this pretext, I wish to discuss the outcome of having taught my students interpreting skills to enhance their abilities to speak, listen, read, and write in Japanese after a year of instruction. I hope that language teachers in Taiwan will be able to develop a comprehensive foreign language curriculum that is tailored to the language needs of Taiwan, so as to train language specialists that will meet the demands of the society.*

### はじめに

20 世紀の工業社会から情報通信・ハイテクノロジーへと世界経済の形態は変化してきた。かつては経済交流の担い手を育てる台湾の日本語・英語教育の目的は、談話に関する語学運用能力よりも、活字情報の入手に必要な文法的言語処理能力の育成にあった。21 世紀の初頭から、グローバル経済は世界各地で続発する不安定要因によって低迷しているが、危惧の中でも中国アジアに希望を見出し、その膨大な消費市場に殺到する貿易の転換期を迎える中で、言語運用能力の重要性にいま関心が寄せられている。

---

WANG Chu-Hui, "A Report on the Interpretation Program at the National Kaohsiung First Technology University." *Interpretation Studies*, No. 2, December 2002, pages 145-160.

(c) 2002 by the Japan Association for Interpretation Studies

国立高雄第一科学技術大学外国語学部応用日本語学科では、上述の時勢に適した教育理念として、日台間のビジネス業界で活躍すべき人材の育成を教育目標に掲げ、日本語全般、一般政経・文化などの分野や通訳翻訳のカリキュラムを編成している。外国語学部に属す日本語学科として、2年間で十分な外国語の運用能力を身につけさせることが目標である。異文化交流の掛け橋を担う人材は、日本語で話し、日本語で説明し相手に理解させ、情報発信ができる能力、日本語の言語生活と文化を理解し、国際社会の理解と信頼を獲得できる能力が欠かせない<sup>1)</sup>。

筆者は応用日本語学科の3年生と4年生と院生の通訳課程を担当しており、各学年の通訳翻訳シラバスを考案した。また2001年度(民国90学年度)4年生の通訳コースデザインは学習者の背景情報収集からシラバス目標を設定し、学生のニーズに合った授業内容を展開した。

本稿ではまず台湾社会や日本語学習者のニーズに触れ、つぎに応用日本語学科の通訳授業で実際に速読法やシャドーイングと聴解訓練を取り入れた授業内容を提示し、このような授業内容を通して、日本語学習者の語彙力・聴解・スピーチ能力の強化が望めたかどうか、その成果を考察する。

## 1. 台湾における日本語の需要と教育機関

2001年香港で举行された FORTUNE GLOBAL FORUM の会議で、中国大陸が WTO に加盟した後、より多くのビジネスチャンスが中国で発生し、グローバル経済は活発化すると論じられた<sup>2)</sup>。時代の変動に左右され日本語を専攻する学生に対する需要は減少するのではないかという懸念の声に反して、台湾では日本語専門教育機関が増えている。

### 1.1 中国大陸にない台湾の優位性を認識

中国大陸の日本語人材(本論では専門教育における日本語学習者を指し、以後学習者と称す)との競争を考えたとき、中国大陸にない台湾独自の優位性や特色が競争力につながる。語学力だけではない文化的な豊かさと感性、そして日本統治時代に受け継がれてきた日本文化の伝承が台湾にはある。加えて地縁的な一衣帯水の日台間では、長い間培われてきた日台相互の信頼関係も強い絆になっている。これは日本のメーカ・金融・サービス業などの業界が大陸に進出し、その中間管理職以上の職位に台湾の職員を配置することからも伺える。台湾はすでに日本語・日本文化を受け入れるための学習環境や、台湾の競争力を高める潜在要因が整っている。

### 1.2 言語運用能力を有する人材育成

2000年7月に行われた交流協会台北支部主催の日本語教師夏期講座で、水谷信子<sup>3)</sup>

は今後の日本語教育の推進は従来と異なる内容であるべきだと説いた。木村宗男<sup>4)</sup>も同じことを主張している。専門教育として日本語教育を受けている外国人とは国内外の大学で日本語を専攻している学生で、これらの学習者は将来、研究・翻訳・外交・実業・報道・伝道・教育などを活躍の場とし、これらのジャンルで活動するには日本人並みの日本語能力・日本事情の知識を必要とすると記述している。

### 1.3 台湾における日本語ブームと教育機関の増加

1997年、高雄第一科技大学から国立高雄第一科技大学外国語学部応用日本語学科が発足した。日本語教育機関数は1999年の342ヶ所から2000年の694ヶ所（2倍増）となり、学習者数は161,872人から192,015人（1.2倍増）に増加している。交流協会日本語センター資料の2002年度の最新日本語教育情報によれば、台湾の日本語ブームは日本語学科の新設ラッシュが続いており、高等教育機関で新設された日本語学科およびコースは、大学で1校（世新大学）、応用日本語学部が2校、応用日本語文学科日本語組が1校、現時点で台湾全体では合計40の日本語関係の学科およびコースが開かれている。

### 1.4 これからの日本語教育の方向性

このような日本語ブームの中で、技術・職業知識と専門の語学力を教育目標に掲げる科学技術大学は、従来の日本語教育モデルから脱却し、実践力・機動性に富む人材育成のプログラムである総合学習型教授法を早急に思案し実践しなければならない。日本語学習者が日本語能力を強化し、知識の蓄積や通訳翻訳の技能を習得してこそ社会に通用するであろう。

筆者は上述の台湾社会・学生のニーズを分析し、どうすれば日本語運用能力や通訳翻訳としての技能が蓄積できるのかを考え、それに対応できる通訳カリキュラムの授業内容をデザインし2001年度大学4年生の授業で実施を試みた。

## 2. 授業に通訳を導入した先行研究

日本では通訳作業の欠陥から国益が危うくなり、人権上の問題が発生する懸念があるとして、通訳の総合的研究が実施された。文部省助成の科学研究として1991年に英語の通訳教育の導入から、外国語教育に関する研究として800ページ近くの調査資料を集めている<sup>5)</sup>。

### 2.1 通訳授業の先例

筆者が1996年から2001年まで東呉・淡江大学で通訳の教鞭をとった授業では、大学日本語学科の4年生（東呉）3年生（淡江）学習者は翻訳（ドラマ・アニメ）経験有

りが10人足らず(1クラス25名)で簡単なアテンド通訳の経験有りが2人ぐらいだった。ほとんどの学生の日本語学習歴は3~4年だった。学生たちは日本語で考えたり談話を発するのが苦手、先に中国語で談話文体を考え、それを日本語に転換して発話する。そのとき、中国語の漢字をそのまま日本語で発音してしまう。また意外なことに母語である中国語での談話組織力や発表力も弱い傾向にある。筆者が通訳の授業をする中で、学生は日本語の文法・日本語語彙力があっても「読む・書く・聞く・話す」の4技能+「訳す」では、聴解とスピーチ能力が著しく弱いため、オーラルで「訳す」能力に欠ける。義務教育からの延長で、発想転換型ではない詰め込みと暗記型人間が形成されている懸念はある。日本語学習者として日本語の語法を理解する能力があっても、相手の発話を理解し、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション能力に欠けている。そのため、上述の大学で通訳入門のシャドーイングとディクテーション・文字化を取り入れた学習を行い、プロソディーの矯正、知識の増強、日本語を論理的に思考するための訓練とした。

## 2.2 聴解とスピーチの強化に通訳技法は欠かせない

日本語教育の中で通訳教授法を考えると、日本人とコミュニケーションするには聴解およびスピーチの強化が不可欠であり、従来の日本語教授法だけでは対応できず、通訳技法を取り入れた総合型学習モデルを考案し実施するべきである。

当校は日本語運用能力・第2専門知識を持つ人材育成学校の教育目標として掲げている。筆者は大学4年生の通訳授業として1年間のシラバスやカリキュラムをデザインし、つねに学生の学習困難点を収集して、授業内容修正の指標にしながら聴解とスピーチの強化を目指した。通訳課程は年間計50時間前後のコマ数(1コマ50分)がある。

2001年度4年生前期通訳の授業内容は、情報処理の理論を説明し、短期記憶の強化、論理的な談話の産出、異言語転換などの訓練を行った。教材選定条件は文字数・談話スタイル(講演会・座談会・報道)、談話スピード、内容の難易度などを考慮した。視覚教材や聴覚教材はシラバスに従って教師が作成した。

## 3. 総合学習型通訳授業法のデザイン

日本語運用能力を持つ有能な人材の育成目標は、明確に提示されなければならない。2年間で理想的な授業法のデザインを考案するにはさまざまな要<sup>6)</sup>を考慮する必要がある。応用日本語学科の教師として通訳授業内容を研究開発するにあたり、原点に戻って学習者のニーズを考える必要があると感じたので、同学校の竹内が調査した内容を参考に、通訳授業内容をデザインした。次に本校の日本語学習者の背景とニーズを紹介する。

### 3.1 学習者の背景調査

#### 3.1.1 背景情報の収集

学生の母語：中国語（北京語・台湾語）

在籍校：国立高雄第一科技大学外国語学部応用日本語学科

日本語学習歴：

- 4～6年の専門日本語の学習歴
- 日本語能力が中級以上（日本語検定試験2級以上）

学習目標：

- 日台のビジネス業界に有用な人材（機動性・通訳翻訳）
- 日本語・政経・文化などの知識の習得と運用。

学習項目：

- プロソディーの矯正
- 語彙数・知識の増加や日本語の産出
- 中日語法の相違分析
- 情報処理のプロセスを知って、理論と訓練で熟達度を高める：シャドーイング・ディクテーション・パラフレーズ・サイトトランスレーションなどを訓練。

#### 3.1.2 ニーズ分析(学習目的調査)

##### a) 学習者のニーズに関する情報収集

日本語学習の目的、身分、立場による日本語の必要度は竹内香代子<sup>8)</sup>の資料を参考にした。通訳授業を受講している4年生（竹内の調査時点では3年生）のニーズ調査の結果によると、学生たちが望むベスト5の学習目標は以下のとおりであった。このベスト5を見れば、学生たちが談話行為による日本語運用力を欲していることが伺える。

- 文型：60%以上：語彙・文型・敬語・口語の習得
- 読解：朗読スピードアップ（62%）新聞雑誌記事読解力（80%）
- 聴解：聴解のスピードアップ（75%）ニュースの聴解（80%）
- 作文：短期間で文章作成ができる（75%）
- スピーチのスピードアップ（62%）プロソディ強化（82%）

##### b) 社会的なニーズに関する情報収集（目標言語調査）

台湾では同時通訳者を必要とする国際会議が近年減少している。卒業生のうち男子はほとんど2年の兵役があり、退役してから就職あるいは大学院を目指すため、学力低下に陥りやすい。女子は就職を目指す傾向にあるが、からなずしも日本語関係の仕事に従事するわけではない。専門教育を受けた学生が実際にどのような場面で、どの

ような活動において、どのような日本語を必要としているのかは、これから社会的ニーズに関する言語技能やコミュニケーションの TPO を考慮しながら調査を行う必要性がある。また企業からの情報収集や卒業生の追跡調査をもとに、技術職業大学としての応用日本語学科の位置付けや、教育の方向性を探す時期にきている。

### 3.1.3 レディネス分析(学習に対する準備態勢調査)

本校の学生が、日本語学習に対してどのような準備態勢が出来ているのか。竹内の調査・分析によると学生達の将来への目標や目的意識は明確である。竹内の調査によれば、本校で日本語を選択した理由として、仕事に直結した幅広い、あるいは専門的な知識と技能の習得を願っている学生が多かった。少数の学生は卒業後の進路に関してまだ模索している。そのため、授業中あるいは相談にきた場合のカウンセラーとして、企業や社会のニーズを説明し、学生の不安感を除きながら正確な情報を提供する。大学の教師は専門領域のエキスパートとしてではない、社会や国際情勢に広い知識を持つ人生の先輩として、キャリアカウンセラーの役割も果たさなければならない。近年、台湾では大学生の意識低下、自己学習意欲の減退、協調性の無さが目立っている。

## 3.2 シラバス・デザイン

データと学習者のニーズをもとに作成した2001年度第1学期通訳シラバスを以下に示す。

国立高雄第一科技大 2001 年度第 1 学期シラバス			
科目名称	通訳	担当教師	王珠惠
受講学年	応用日本語学科 4 年生 80 名		
教学目標	1. 通訳の基本概念と通訳者使命の理解 2. 通訳言語・知識・技能の重要性 3. 中日語法の相違とその対応 4. 情報処理の基本概念 5. 通訳入門による聴解とスピーチの強化 (デイクテーション・文字化・シャドーイングなど)		
教 材	新聞・雑誌・国際会議などの文字原稿や、視聴覚教材テープなど		
参考書籍	輔仁大学出版社「中日通訳入門」楊承淑 台湾日本語文学報 13「通訳理論と実践」王珠惠		
採点方法	1. 平常テスト 40% 2. 提出物 30% 3. 期末テスト 30%		
先修科目	なし		
学生への提言	1. 自主学習の重要性 2. 日本語発話の重要性 3. 総合型学習モデルの定着		
進度	第 1 週：通訳コンセプトとマーケット現況 教授目的：通訳翻訳市場の実態と通訳授業の位置付け 第 2 週：通訳理論と技能		

	<p>教授目的：通訳翻訳の関連性と練習</p> <p>第3週：朝日新聞文字原稿：座標「過去の克服こそ原点」 教授目的：聴解テープの文字化による自己学習、翻訳</p> <p>第4週：朝日新聞文字原稿：座標「過去の克服こそ原点」 教授目的：日本語文書速読法学習、同時転換と産出の練習</p> <p>第5週：新聞文字原稿「私の暴力論」 教授目的：日本語言換えによる語彙力の訓練、知識の増強</p> <p>第6週：物事の仕組み：汚水処理、クーリングオフ 教授目的：文体分析と対訳、漢字による阻害要素の除去</p> <p>第7週：汚水処理、クーリングオフ、ファジー製品 教授目的：知識の増強・日中用語対照表、シャドーイング</p> <p>第8週：音声教材「苦難のアフガン難民」 文字教材（中文）アフガン人道危機 教授目的：視覚教材から聴解・知識・論理的産出の訓練。文字教材から翻訳と通訳の対訳を学習</p> <p>第9週：文字教材（中文）アフガン人道危機 教授目的：視覚教材から聴解・知識・論理的産出の訓練。文字教材から翻訳と通訳の対訳を学習</p> <p>第10週：ファジー、HDTV、医療費 教授目的：文体分析、知識の増強、サイトトランスレーションの訓練</p> <p>第11週：確定申告、緊急医療、法事 教授目的：文体分析、知識の増強、サイトトランスレーションの訓練</p> <p>第12週：総合学習「模擬座談会」 教授目的：総合学習「模擬座談会」による発表（司会・通訳・プレゼンテーション方法を学習）</p> <p>第13週：DSのしくみ、気になる商売 教授目的：文体分析、知識の増強、サイトトランスレーションの訓練</p> <p>第14週：アフガン難民について 教授目的：同時通訳の練習</p> <p>第15週：物事のしくみ総まとめ1 教授目的：知識と語彙の定着を確認。論理的産出の成果とコメント</p> <p>第16週：物事のしくみ総まとめ2 教授目的：知識と語彙の定着を確認。論理的産出の成果とコメント</p> <p>第17週：期末テスト筆記試験</p> <p>第18週：期末考口試：口頭試験：ペアワーク試験</p>
--	--

## 第2学期シラバス

<p>予定進度：</p>	<p>第1週：外来語短文練習の方法と技法、宿題の定着 教授目的：認知科学の記憶と学習理論で通訳に関連する内容を講義</p> <p>第2週：外来語短文練習 教授目的：訓練に重点</p> <p>第3週：外来語短文測定 教授目的：語彙・文化説明、産出練習</p> <p>第4週：外来語短文測定 教授目的：文体分析と対訳方法の説明</p> <p>第5週：外来語短文練習 教授目的：語彙文化説明、シャドーイングの阻害要因を問診する</p> <p>第6週：外来語全体テストとコメントによる学習定着を確認</p> <p>第7週：報道番組「大陸赴任するハイテク人材の規制について」 教授目的：中国語情報の理解と処理、日本語背景の理解・処理・産出</p> <p>第8週：NHK ディベート「主婦とパート」 教授目的：日本語の聴解、文体の構成力、知識の蓄積、言換えの練習</p> <p>第9週：ニュース番組「中油漏油事件」 教授目的：中国語情報の理解と処理、日本語背景の理解・処理・産出</p> <p>第10週：グループ発表「中国石油漏洩事件について」 教授目的：6～8分のプレゼン内容からスピーチテクニック・逐次通訳・</p>
--------------	--

	<p>チームワークを学習</p> <p>第11週：政府記者会見の文字原稿「コミュニティ全体運営」 教授目的：文字原稿情報の処理として、日中文体の違いを学習し、サイトトランスレーションの練習、直訳と意識の相違を勉強する</p> <p>第12週：文化祭の行事指導 教授目的：開会式の式辞挨拶原稿作成とその通訳、要請状やパフォーマンスなどのコーディネーター指導。浴衣の着付け・化粧方法などの指導を通じて日本的思想やマナーを教える。学生との距離を縮めることで、学習への不安を無くし、高度な学習効果を狙う。</p> <p>第13週：新聞社説「サイバーテロについて」 教授目的：日本語文字原稿の情報処理方法を学ぶ。ホットな話題として、共通言語であるサイバー分野の知識や用語を習得する。</p> <p>第14週：期末テスト</p>
--	--

### 3.3 カリキュラム・デザイン

シラバスに沿ったカリキュラムを、言語、知識、技能で分析する。

2001 学年度 4 年生通訳カリキュラム目標			
	言語と運用	技能	知識
教授法	聴解・産出技能の強化・プロソディ強化・語彙増加（中日用語対照表）	・速読法 <sup>9)</sup> ・ディクテーション・パラフレーズ・シャドーイング・同時通訳法・	一般知識：文章理解と関連資料の前作業
教室活動の現況	<p>小クラス</p> <p>6 週間は教師主導型で時間配分 50%, 練習 30%, 質疑 20%。</p> <p>次の6週間で70% を学生実践型に、残り 30%で教師が解説する管理支援型とする。</p> <p>次の 6 週間で実践型と自主的発言奨励型に変え、スピーチの産出に重点。</p>	<p>6 週間：速読 3 ステップ ディクテーション、パラフレーズ、シャドーイング、翻訳と校正、サイトトランスレーションの導入</p> <p>6 週間：ディクテーション、シャドーイング表強制提出、ペアワーク同時通訳</p> <p>6 週間：シャドーイング、サイトトランスレーション、模擬座談会による実地訓練、自主学習の定着</p>	<p>6 週間：中日用語対照表提出、速読法の一次情報選別（キーワード・センテンス）、ペアワーク練習。</p> <p>6 週間：クラスの雰囲気活気づき、学生と教師のインターアクションが定着し、自主的な学習意欲によって、背景情報・知識入手が定着。</p>
教師資質	日中バイリンガル、国際会議通訳、日本語教師、教育カウンセラー。	輔仁大学翻訳大学院の通訳・翻訳スペシャリストライセンス取得、日本語教師歴 20 年、薬学卒業	翻訳通訳歴 1 年、会議コーディネーター歴 10 年、教育カウンセラー 5 年。
教材選定	日本語 80%、中国語 20%。文字教材：新聞雑誌・会議原稿。視聴覚教材：報道番組*ニュースは避ける。自作テープ（日本語母語者）。	生教材を選定。総合学習型として、速読法による前作業で理解と産出を強化する。前の週に速読法で原稿の大意や未修語彙を理解して次の週の授業に望む。シャドーイングや、ディクテーションで原語の文字化と訳語を自宅学習。	文字、聴覚教材を用いて、予習訓練法から自主学習の知識獲得を狙う。知識の情報収集と用語対照表作成によって語彙の増強。
教具使用	ツール：LL 機械、ヘッドフォン・ステレオ、ホワイトボード、携帯マイク	生教材のテープを渡す、ヘッドフォン・ステレオでシャドーイング、プロソディー・流暢さを強化不安感を克服。ペア・グループワーク。	ハード環境の LL 教室操作になれ、学生が均等にスピーチと翻訳の練習を通じて知識を獲得。

### 3.4 通訳技法から通訳授業内容の効果を分析

技法種類	教室活動法、教師の役割	一般テスト対話	提出物	成果分析
速読法	速読法を説明 (文末脚注参照)	ペアテスト、朗読・シャドーイング・SI ペアテスト、パラフレーズ	文字教材の朗読と翻訳 キーワードの中日用語対照表	語彙と領域知識の獲得、流暢さ、類義語の増加、短期記憶貯蔵庫から長期記憶貯蔵庫へ移行。
シャドーイング	ヘッドフォン・ステレオで日本語を真似る。 ペアワーク練習で強制思考力を強化。	個人テスト、ペアワークテスト。個人向け弱点指導。	テープ生教材を準備。 ペアワーク、自主学習の義務付け	初期：速度とリズムに困難。中期：70%は速度に順応。後期：90%定着、プロソディ改善
サイトランスレーション	主語・動詞。変訳・倒訳・順送り訳。大意を掴み、発話行為の産出指導。	産出練習、中日文体の相違を分析し、情報のインプットとアウトプットのプロセス分析を習得。	短期刺激で誤訳・流暢さに欠ける個所を発見。生成文法の語法から、中日文体の相違を学習。	瞬間理解と分析力、組織力、語彙と知識の増加。

上記の表は応用日本語学科の通訳授業でどれだけ聴解と産出に関する総合学習型内容を実施したかの分析である。

## 4. 評価

次に 2001 年に行われた通訳授業に関する評価を考察する。

### 4.1 2001 年度優良教学教師に指名される(教学評価表)

実施機関：国立高雄第一科学技術大学「教学評定委員会」

評価指標：学習満足度・授業内容・授業方法・授業効果・授業熱意各 16 問

評価成績：最低得点 1～最高得点 7（小数点 2 桁まで）

回答者：全校生（管理学部・工学部・外国語学部）

調査期間：2001 学年度前後期最終月の第 1 週目

調査方法：無記名、教師は席を外し、担当の学生が回収した資料を密封し  
教務課に届ける

調査時間：授業の最初あるいは最後の 10～15 分間

筆者の評価成績：全教科とも 6 点以上

2002 年新学期の 9 月 19 日、本校教務課から自分が優良教師に指名されたことを告げられた。学生たちの私への評価は、通訳授業のコースデザインへの評価として素直に受け止めて良いだろう。学生の声では「先生は放課後自分たちの意見を聞き入れて、それに対応する授業内容をアレンジしてくれる」とある。コースの途中で時々コンサ

ルテーションを行うことによって、より適切な教育や授業展開が望まれた。学校の評価は教師の励みにもなる。

#### 4.2 2001 年度外来語測定と評価

2001 年度後期の新学期から 6 週間にわたり、外来語短文 200 題を通訳技法で訓練した。通訳技法はディクテーション・文字化・シャドーイング・大意把握を入れた総合型学習とした。自宅学習で練習し、宿題として文字化した日本語原文と日本語校正文、そして簡単な中国語訳文を記入した。レポート提出にした。6 週間のうち第 1 週は授業に入る前に予告なしで抜粋した 50 問の外来語測定を行った。それから 6 週間の授業をしつつ小テストを行った。小テストは各週ごとに 3 回行った。小テストで発見した問題点は、教師が作成した個人評価表に記入し、そのつど学生のプロソディーの矯正に役立てた。第 7 週目から長文情報処理に入り、学期末の外来語測定も予告しなかった。

学生たちにとって外来語は馴染みがなく不得手な領域であるが、社会的なニーズから、勉強する必要がある。だが、時間が限られている以上、学習手段と自己学習習慣の定着を目標とした。外来語の学習効果を測定するための短文 50 題は資料として本稿末尾に添付する。次に 4 年生 80 人を対象に行った測定結果の統計表を提示し、評価分析を行う。

##### 4.4.1 2001 年外来語測定正解統計表(合計 80 人)

番号	一回目正解数	2回目正解数	有効回答人数	成長倍数	負成長	無効人数
1	3	11	1	3.7	0	0
2	0	4	1	4	0	0
3	1	16	1	16	0	0
4	2	17	1	8.5	0	0
5	1	12	1	12	0	0
6	0	16	1	16	0	0
7	2	6	1	3	0	0
8	7	21	1	3	0	0
9	0	2	1	2	0	0
10	9	13	1	1.4	0	0
11	2	14	1	7	0	0
12	3	12	1	4	0	0
13	2	12	1	6	0	0
14	9	16	1	1.8	0	0
15	0	10	1	10	0	0
16	4	21	1	5.3	0	0
17	2	8	1	4	0	0

18	1	9	1	9	0	0
19	2	11	1	5.6	0	0
20	0	7	1	7	0	0
21	1	29	1	29	0	0
22	2	10	1	5	0	0
23	26	29	1	1.1	0	0
24	1	1	1	1	1	0
25	7	2	1	-0.28	1	0
26	1	11	1	11	0	0
27	1	16	1	16	0	0
28	5	9	1	1.8	0	0
29	1	26	1	26	0	0
30	1	5	1	5	0	0
31	2	5	1	2.5	0	0
32	無効	—	—	—	—	1
33	無効	—	—	—	—	1
34	無効	—	—	—	—	1
35		—	—	—	—	1
36	3	30	1	10	0	0
37	0	9	1	9	0	0
38	1	25	1	25	0	0
39	4	30	1	7.5	0	0
40	4	8	1	2	0	0
41	1	9	1	9	0	0
42	2	12	1	6	0	0
43	1	19	1	19	0	0
44	3	11	1	3.7	0	0
45	1	12	1	12	0	0
46	5	16	1	3.2	0	0
47	2	15	1	7.5	0	0
48	2	14	1	7	0	0
49	3	10	1	3.3	0	0
50	8	24	1	3	0	0
51	4	24	1	6	0	0
52	0	14	1	14	0	0
53	2	23	1	11.5	0	0
54	1	15	1	15	0	0
55	2	15	1	7.5	0	0
56	0	4	1	4	0	0
57	3	7	1	2.3	0	0

58	1	5	1	5	0	0
59	5	20	1	4	0	0
60	1	8	1	8	0	0
61	0	25	1	25	0	0
62	5	33	1	6.6	0	0
63	0	14	1	14	0	0
64	1	5	1	5	0	0
65	6	14	1	2.3	0	0
66	0	20	1	20	0	0
67	2	4	1	2	0	0
68	0	9	1	9	0	0
69	5	21	1	4.2	0	0
70	0	23	1	23	0	0
71	0	4	1	4	0	0
72	4	14	1	3.5	0	0
73	無効	—	—	—	—	1
74	無効	—	—	—	—	1
75	無効	—	—	—	—	1
76	無効	—	—	—	—	1
77	無効	—	—	—	—	1
78	無効	—	—	—	—	1
79	無効	—	—	—	—	1
80	無効	—	—	—	—	1
合計			68		2	12

統計表に基づき評価の考察を試みる。学生数 80 人中、有効回答は 68 人だった。その中でプラス成長は 66 名 (82.5%) だった。またそのうち 1 回目の正解が 1 桁で 2 回目の正解が 2 桁以上の正解人数は 44 人 (55%) だった。以上の数値分析から、通訳入門技巧を取入れた訓練法は、量的に効果があったと実証される。

学校の教学評価結果と外来語測定結果、そして小テストによるプロソディーの矯正を通じて、語彙力・聴解力・スピーチ能力の強化が望めたと考えられる。事実、年間 60 時間程度の授業量で、どれだけの日本語学習効果が期待できるかがわれわれ通訳教師の最終使命である。今後、診断的な評価や形成的評価だけでない、通訳と従来の日本語授業に適した総括的評価を考案する必要がある。

## 5. 今後の取り組み

本論では台湾の国立高雄第一科学技術大学外国語学部応用日本語学科における通訳授業内容の実施状況を説明し、現状に適合した外国語運用能力のある人材育成に貢献

できたかどうかシラバスやカリキュラムを通して分析し評価を考察した。

筆者の通訳経験から察するに、認知科学の言語領域と記憶・学習領域は、日本語教育と密接な関係にあると考えられる。今回の論文は通訳技法を導入した訓練で短期記憶を刺激し、自宅学習の1週間で聴解と文字化、そして中国語の大意を前作業で訳出し、最後に最低3回以上のシャドーイングを行い授業に臨むコースをデザインした。また授業では日本語語法の難解部分を解説し、中国語の大意をつかむことで論理的な文構成を勉強させ、小テストでシャドーイングと同時通訳に似た作業を実施した。小テストでの個人の結果はその場で各人にアドバイスし、それを自宅学習へとつないでいった。このような一連の作業を通して自信・興味・知識の蓄積、談話の産出が行われ、教師としての手ごたえを充分に感じる事ができた。

大学の日本語学科3年生や4年生に通訳授業が組まれているが、1年間の通訳授業だけで通訳者としての能力を育成することは困難である。一般的に日本語教育者は通訳を語学教育の一環とは認めず、一種の技能だと思っている。しかし通訳訓練を通じて日本語能力の向上や運用能力が期待できることが、評価結果として立証された。従来の日本語教育に通訳という情報処理の手法を取り入れ、多くの教育者が積極的に参与し、社会や学習者のニーズに対応できるような新たな日本語教授法が開発されることを切望したい。

---

**著者紹介：**王珠恵 (WANG chu-hui) 現在、国立高雄第一科技大学応用日本語学科通訳翻訳専任講師、輔仁大学翻訳学中日通訳組講師、中日国際交流促進会会長、文科省指定台中日本人学校「海外子女教育研究協力校」研究計画アドバイザー、中日薬剤師。

E-mail: outamae@ms8.hinet.net

---

#### [註]

- 1) 石井敏等 (1996) 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』
- 2) 香港新報 2001年5月9日社評
- 3) 水谷は日本語を教え込むのではなく、学習者の持つ能力を引き出す能力支援型教育・情報発信型として日本語を使って話せる、説明でき・納得させられるよう、言語の構造だけでなく、日本人の言語生活と文化を理解する。そして国際社会の理解と信頼獲得のために日本語教育を生かすべきだと話した
- 4) 木村宗男 (1996) 『日本語教授法—研究と実践—』凡人社
- 5) 渡部昇一他 (1999) 『外国語教育の一環としての通訳養成のための教育内容方法の開発に関する総合的研究』文部省助成科学研究報告書 (研究代表者：渡部昇一)
- 6) 竹内香代子 (2002) 「応用日本語学科の89年度入学者へのアンケート調査からの考察」『台湾応用日語学会成立大会・国際学術研討会』表9
- 7) 三牧陽子 (2000) 『日本語教授法を理解する本:実践編』  
専門日本語：(Japanese for specific purpose JSP) 専門分野ごとの日本語。  
一般日本語：一般的なもっとも通用範囲の広い日本語で、日常生活を送る上で普遍的

と思われる基本的な語彙や文法事項・場面・機能・内容など優先的に教える。教養としての日本語や応用として学習ための日本語。

- 8) 竹内香代子 (2002) 「応用日本語学科の 89 年度入学者へのアンケート調査からの考察」『台湾応用日本語学会成立大会・国際学術研究会』表 7
- 9) 通訳技法として採り入れている速読法は、学生が日本語の文字原稿を入手してから、シャドーイングに移行する前作業としての 3 回音読である。
  - 1 回目：未習の語句や難読ヶ所をそのままにして一般的な速さで音読し、文脈の前後から意味を推測しながら、細部に拘らずに未習の語句、或いはキーワードやキーセンテンス、そして中日文体の構造に係わる動詞をハイライトし最後まで読み終える。次に辞書で未習語句を調べたり、流暢さに欠けたヶ所をを反復練習して 2 回目の音読に移る。
  - 2 回目：1 回目で音読し大意をつかみ、語句調べや流暢さをつかめば、内容を一層理解できるので、2 回目の音読は驚異的なスピードで行う。
  - 3 回目：感情豊かなプロソディで音読する。

#### [参考文献]

- 石井敏等 (1997) 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣
- 王珠恵 (1998) 「通訳の理論と実践現場」『台湾日本語文学報 13』(pp. 341-362)
- 大津由紀雄 (2001) 『認知心理学 3：言語』第 9 章 東京大学出版社
- 木村宗男 (1996) 『日本語教授法—研究と実践』凡人社
- 倉八順子 (1999) 『こころとことばとコミュニケーション』明治書院
- 国立国語研究所 (1996) 『談話の研究と教育』大蔵省印刷局
- 近藤正臣 (1992) 「シャドーイングの有効性」『通訳理論研究』第 2 号 (pp.43-51) 通訳理論研究会
- 鐘芳珍 (2000) 「二技応用日本語学科におけるコースデザインの一考察」『第 1 回全国応用外語学術学会議』
- 高野陽太郎編 (2001) 『認知心理学 2：記憶』(pp. 71-94) 東京大学出版社
- 竹内香代子 (2002) 「応用日本語学科の 89 年度入学者へのアンケート調査からの考察」『台湾応用日本語学会成立大会・国際学術研究会』表 9
- 谷口龍子 (2000) 「台湾における日本語教育の現状—日本語教育事情調査 (平成 11 年度) 報告書より」『追求卓越の日本研究国際会議論文集』(pp. 29-38) 台湾日本語教育学会
- 波多野誼余夫編 (1998) 「第 8 章：処理速度・容量と問題解決」『認知心理学 5：学習と発達』東京大学出版社
- 水谷信子 (2000) 「これからの日本語教育」交流教会日本語教師夏期講座
- 三牧陽子 (2000) 『日本語教授法を理解する本—実践編』(p. 10) 凡人社
- 楊承淑 (1996) 『中日口訳入門教程』致良出版社
- R.ラックマン・J. L.ラックマン・E. C. バターフィールド共著、戸田正直他訳 (1990) 『認知心理学と人間の情報処理 II』サイエンス社

[資料] 外来語測定 50 題

1. 離婚が増える中であらためて家族のあり方が\_\_\_\_\_されてきています。
2. \_\_\_\_\_は2%どまりでした。
3. この工事は半年後に完了するはずでしたが、途中思わぬことで\_\_\_\_\_し、完成は2か月延びることになりました。
4. 政府の閣僚会議は、マスコミを\_\_\_\_\_して、極秘の中で行われました。
5. A君は東大卒、大蔵省入りの\_\_\_\_\_をまっしぐらに進んでいる。
6. 彼はこの事件の\_\_\_\_\_にされた。
7. 営業といってもアシスタントなので、内容はほとんど\_\_\_\_\_です。
8. 彼はうちの会社の\_\_\_\_\_だ。
9. オリンピックを目前に、市内の道路の補修やビルの建設工事が\_\_\_\_\_で進められた。
10. テレホンカードは、現金先払い方式の\_\_\_\_\_の一種だ。
11. 彼は2年前独自の経営方式による\_\_\_\_\_を起こし、今ではその業界でかなりのシェアを占めるまでに成長しました。
12. ストレスの多い国では、\_\_\_\_\_に対する関心度も高まっている。
13. あの会社は社長の\_\_\_\_\_体制で有名です。
14. 関西国際空港から大阪方面への\_\_\_\_\_は十分に整っています。
15. 先生から就職についての\_\_\_\_\_を受けました。
16. \_\_\_\_\_のない来客には、社長はお会いにならないそうです。
17. マレーシアはアセアン諸国の中で\_\_\_\_\_をとる存在になっている。
18. 私は数十年間、水泳教室で\_\_\_\_\_をしていました。
19. 旧ソ連の崩壊は、全世界に大きな\_\_\_\_\_を与えました。
20. 100万人を動員したコンサートで、観客は始終\_\_\_\_\_していた。
21. 長い間インドに住んでいた彼女の家は室内のインテリアから着るものまですべて\_\_\_\_\_な雰囲気にあふれています。
22. 今回の事件は、憎しみの念が\_\_\_\_\_して殺人に至ったケースと言えます。
23. 先生に、作品が完成するまでの\_\_\_\_\_を披露してもらいました。
24. 個性を出すために、デパートはこぞって\_\_\_\_\_商品の開発に熱を入れています。
25. 保健所は、精神衛生についての\_\_\_\_\_を毎日行っています。
26. 会社独自の\_\_\_\_\_を打ち出した商品でなければ、売れない時代になっています。
27. マスコミに勤めているだけあって、彼はさまざまな情報を\_\_\_\_\_している。
28. 今回に商談は相手側の一方的な理由で突然\_\_\_\_\_になりました。
29. 先生は見かけは\_\_\_\_\_だが、意外と激しい面もある。
30. 今度のパネルディスカッションは、通訳者の手配から会場の設定まで、さまざまな

- \_\_\_\_\_が要求されました。
31. あなたの作品は発想から構成まで、ほとんど彼の\_\_\_\_\_としかいいようがありません。
  32. 夏場は体の\_\_\_\_\_が崩れやすい。
  33. 国際化社会を\_\_\_\_\_するには英語はもちろんもうひとつ別の外国語を習得する必要があります。
  34. 彼は外国語を勉強する生徒に\_\_\_\_\_を交えながら言葉の意味を分かりやすく説明しました。
  35. 彼の専門は生物ですが、文学やハイテク等、\_\_\_\_\_を問わない広い知識を持っています。
  36. エイズウイルス発見という\_\_\_\_\_なニュースが世界中を駆けめぐった。
  37. 彼の実力がわが社の幹部の目にとまり、部長に\_\_\_\_\_されました。
  38. 来年の旱魃に備えて、今ある食糧を\_\_\_\_\_しておく。
  39. 社会の\_\_\_\_\_な変化についていけません。
  40. 社長の物腰はとても\_\_\_\_\_で、社員にも慕われています。
  41. 私は彼のような生真面目な\_\_\_\_\_の人は好きではありません。
  42. 会社の慰安旅行で、小型飛行機を\_\_\_\_\_する。
  43. 会社の昼休みに、コンピュータ会社の人が\_\_\_\_\_に訪れました。
  44. 株式投資は将来を見据えた\_\_\_\_\_な展望の下に行わなければなりません。
  45. 時代の\_\_\_\_\_をいち早く取り入れた商品開発を行う。
  46. 物事のポジティブな面だけでなく、\_\_\_\_\_な面も報道すべきです。
  47. この仕事を成功させるためには、まだいくつかの\_\_\_\_\_を越えなければなりません。
  48. \_\_\_\_\_旅行の方が値段も安いし、時間的にも効率がよい。
  49. 著陸直前にエンジントラブルが原因で飛行機が失速したとき機内は大\_\_\_\_\_に陥りました。
  50. 先日駅前にオープンしたパン屋は、一切\_\_\_\_\_をしなかったが、ロコミによってお客が集まり、繁盛しているそうだ。